

団体名: 桃山学区健康危機管理サポーター実行委員

活動名: 指定避難所における健康管理・感染症予防活動

日時: 令和2年11月20日(金) 10時00分～11時00分

場所: 桃山コミュニティーセンター

■団体の紹介■

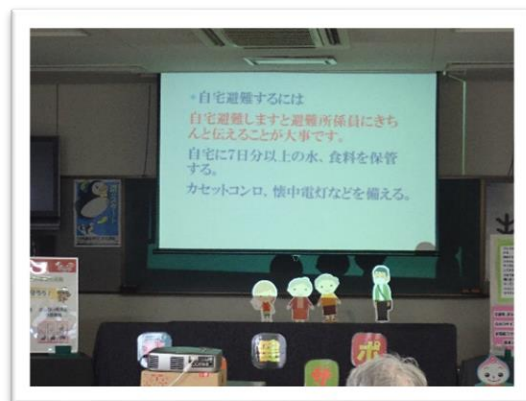
緑保健センター(旧緑保健所)で講習を受けた人が中心となり、災害時に開設される避難所での過ごし方を、少しでも快適にできるように、避難した方の健康管理を行おうとする活動です。

■活動の内容■

まちづくり活動助成2年目となる今年の重点目標は「高齢者に対し、地震発生時に、避難所で行う健康管理や感染症予防方法の啓発をすること」。高齢者の皆さんに対して、どのような形で伝えれば伝わりやすいか、メンバーのみんなで話し合い、「人形劇はどうか?」となりました。台本作り、人形作り、舞台作りと、メンバーみんな初めてのことに知恵を出し合い、練習を重ね、今日の本番を迎えました。開催前は「ドキドキする」「うまくできるかな」と、みなさん緊張の面持ちでした。

この日参加されたのは、一人暮らしの高齢者、15名。人形劇は、4話構成で、1話は5分ほどの長さで、コンパクトにまとまり、わかりやすいものでした。第一話「健サポってなに?」。健康管理サポーターの役割について。

「避難所で、皆さんが自分の命を守ることを手助けするのが役割だよ」と、人形たちが説明してくれます。語り口調も練習の甲斐あって、とってもなめらかです。参加者の皆さんは、可愛い人形たちのわかりやすいお話しで、安心して聴いておられました。



第二話「地震だ!」第三話「自宅で避難できるかな」第四話「自分の身は自分で守ろう」と話は展開。人形劇の途中で、ところどころ、問いかけが入ります。「避難所に行くとき何を持っていきますか?」。参加者の皆さんがそれぞれに「水」「薬」「着替え」など積極的に発言されたのち、司会の方が「人には貸してもらえないもの、薬、メガネ、補聴器、入れ歯などは必ず持って行ってください」というと、皆さん一堂に納得された様子でした。

人形劇という形でのお伝えが功を奏し、わかりやすく、みなさんの印象に残るようにお伝えできた、という手ごたえを感じられる会でした。最後に司会者が言われた「地震は必ず来ます」という言葉には、その場にいた皆が、あらためて気を引き締めました。

会場には、新聞紙でつくる簡易スリッパや、お手製の避難生活に

ついての冊子など、展示や配布物にも工夫が見られ、この活動に対し、楽しくかつ真剣に取り組んでいることがうかがわれました。

